

### 材料の力学 1 Step3 第 10 回演習問題 (2016/7/4 実施)

- [1] 一方の端（点 O）で壁に固定された長さ  $2L$  のはりに分布荷重  $p$  が、点 A ( $x=L$ ) に集中荷重  $P$  が負荷されている。はりの縦弾性係数を  $E$ 、断面 2 次モーメントを  $I$  として以下の問いに答えよ。

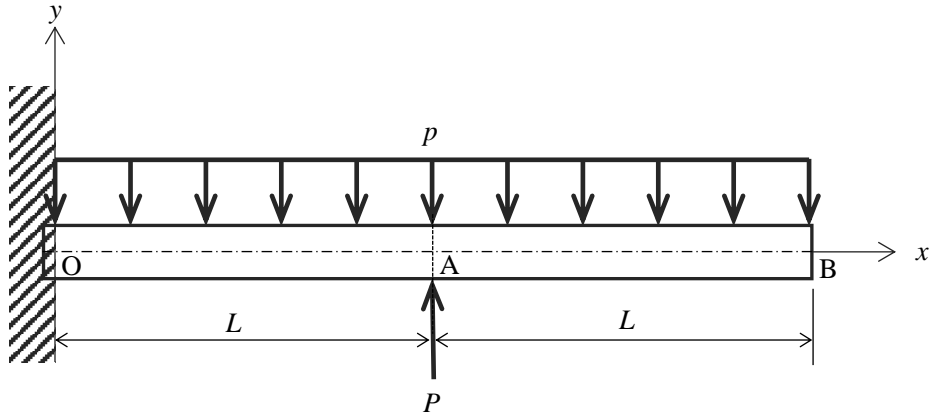


Fig. 1 分布荷重を受けるはり.

- (1) はりの FBD を描き、点 O に作用する反力を  $R_O$ 、反モーメントを  $M_O$  を求めよ。
- (2) はりに生じるせん断力  $Q(x)$ 、曲げモーメント  $M(x)$  をそれぞれ求めよ。
- (3) はりのたわみ角  $v'(x)$ 、およびはりのたわみ  $v(x)$  をそれぞれ求めよ。
- (4) はりの先端（点 B）のたわみ角  $v'_B$ 、たわみ  $v_B$  をそれぞれ求めよ。

[1]

(1) はりの FBD を描き，点 O に作用する反力を  $R_O$ ，反モーメントを  $M_O$  を求めよ。

はりの FBD は，

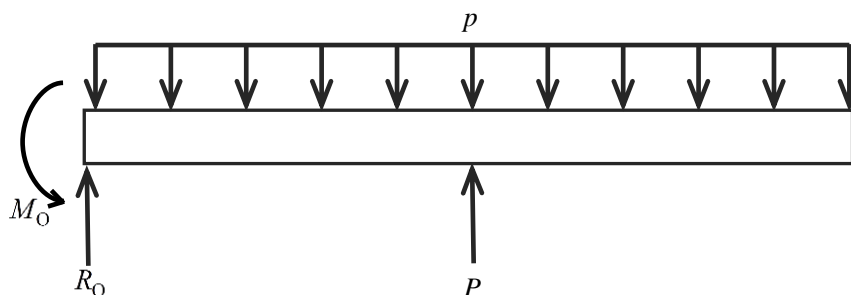


Fig. 1.1 FBD.

と表される．よって，はりに関する力のつり合いの式，および点 O まわりの力のモーメントのつり合い式は，

$$R_O + P - 2pL = 0$$

$$R_O = 2pL - P \quad (1.1)$$

$$-M_O + \int_0^{2L} p x dx - PL = 0$$

$$M_O = 2pL^2 - PL \quad (1.2)$$

で表される．

(2) はりに生じるせん断力  $Q(x)$ ，曲げモーメント  $M(x)$  をそれぞれ求めよ．

(i)  $0 \leq x < L$  のとき

$x$  方向に変化するはりについての FBD は，

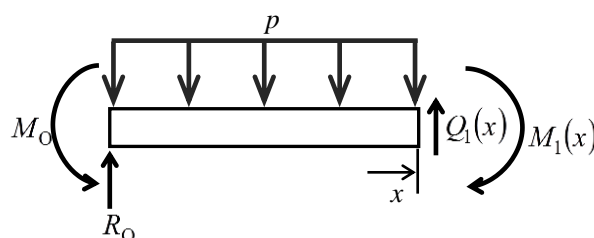


Fig. 1.2 FBD.

と表される．

※解答の導出過程がないレポートは認めない.  
採点済みレポートは次回演習時に返却.

$x$  までのはりに関する力のつり合いの式, および力のモーメントのつり合い式は,

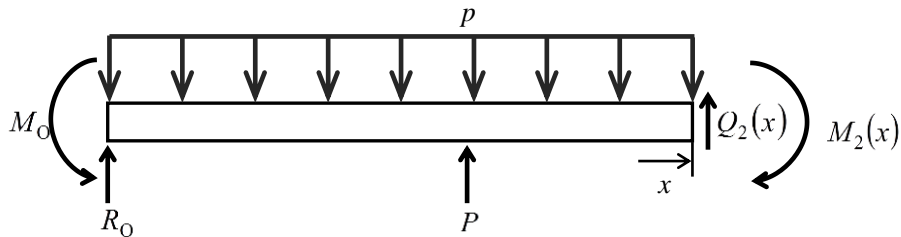
$$\begin{aligned} R_0 + Q_1(x) - px &= 0 \\ Q_1(x) &= px - R_0 \\ &= px + P - 2pL \end{aligned} \quad (1.3)$$

$$\begin{aligned} -M_0 + R_0x - \int_0^x pxdx + M_1(x) &= 0 \\ M_1(x) &= M_0 - R_0x + \frac{1}{2}px^2 \\ &= \frac{1}{2}px^2 + (P - 2pL)x + (2pL^2 - PL) \end{aligned} \quad (1.4)$$

で表される.

(ii)  $L < x \leq 2L$  のとき

$x$  方向に変化するはりについての FBD は,



**Fig. 1.3** FBD.

と表される.

$x$  までのはりに関する力のつり合いの式, および力のモーメントのつり合い式は,

$$\begin{aligned} R_0 + P + Q_2(x) - px &= 0 \\ Q_2(x) &= px - R_0 - P \\ &= px - 2pL \end{aligned} \quad (1.5)$$

$$\begin{aligned} -M_0 + R_0x + P(x - L) - \int_0^x pxdx + M_2(x) &= 0 \\ M_2(x) &= 2pL^2 - PL - x(2pL - P) - P(x - L) + \frac{1}{2}px^2 \\ &= \frac{1}{2}px^2 - 2pLx + 2pL^2 \end{aligned} \quad (1.6)$$

で表される.

※解答の導出過程がないレポートは認めない.  
採点済みレポートは次回演習時に返却.

よって、はりに生じるせん断力  $Q(x)$ , 曲げモーメント  $M(x)$ は,

$$Q(x)=\begin{cases} P+p(x-2L) & (0\leq x<L) \\ p(x-2L) & (L<x\leq 2L) \end{cases} \quad (1.7)$$

$$M(x)=\begin{cases} \frac{1}{2}px^2+(P-2pL)x+(2pL^2-PL) & (0\leq x<L) \\ \frac{1}{2}px^2-2pLx+2pL^2 & (L<x\leq 2L) \end{cases} \quad (1.8)$$

と表される.

(3) はりのたわみ角  $v'(x)$ , およびはりのたわみ  $v(x)$ をそれぞれ求めよ.

はりのたわみに関する基礎式は,

$$-EIv''(x)=M(x) \quad (1.9)$$

と表される.

(i)  $0\leq x\leq L$  のとき

式(1.9)に式(1.8)を代入すると,

$$-EIv_1''(x)=\frac{1}{2}px^2+(P-2pL)x+(2pL^2-PL) \quad (1.10)$$

$$v_1'(x)=-\frac{1}{EI}\left\{\frac{1}{6}px^3+\left(\frac{1}{2}P-pL\right)x^2+(2pL^2-PL)x+C_1\right\} \quad (1.11)$$

$$v_1(x)=-\frac{1}{EI}\left\{\frac{1}{24}px^4+\left(\frac{1}{6}P-\frac{1}{3}pL\right)x^3+\left(pL^2-\frac{1}{2}PL\right)x^2+C_1x+C_2\right\} \quad (1.12)$$

( $C_1, C_2$ :積分定数)

境界条件より  $v_1'(0)=v_1(0)=0$  となるため,  $C_1=C_2=0$  となる. よって,

$$v_1'(x)=-\frac{1}{EI}\left\{\frac{1}{6}px^3+\left(\frac{1}{2}P-pL\right)x^2+(2pL^2-PL)x\right\} \quad (1.13)$$

$$v_1(x)=-\frac{1}{EI}\left\{\frac{1}{24}px^4+\left(\frac{1}{6}P-\frac{1}{3}pL\right)x^3+\left(pL^2-\frac{1}{2}PL\right)x^2\right\} \quad (1.14)$$

と表される.

※解答の導出過程がないレポートは認めない.  
採点済みレポートは次回演習時に返却.

(ii)  $L \leq x \leq 2L$  のとき

式(1.9)に式(1.8)を代入すると,

$$-EIv_2''(x) = \frac{1}{2}px^2 - 2pLx + 2pL^2 \quad (1.15)$$

$$v_2'(x) = -\frac{1}{EI} \left( \frac{1}{6}px^3 - pLx^2 + 2pL^2x + C_3 \right) \quad (1.16)$$

$$v_2(x) = -\frac{1}{EI} \left( \frac{1}{24}px^4 - \frac{1}{3}pLx^3 + pL^2x^2 + C_3x + C_4 \right) \quad (1.17)$$

( $C_3, C_4$ :積分定数)

$x = L$  のときのたわみ角  $v_1'(L) = v_2'(L)$  とたわみ  $v_1(L) = v_2(L)$  の条件により  $C_3, C_4$  を決定する.

$$v_1'(L) = v_2'(L) \quad (1.18)$$

$$-\frac{1}{EI} \left( -\frac{1}{2}PL^2 + \frac{7}{6}pL^3 \right) = -\frac{1}{EI} \left( C_3 + \frac{7}{6}pL^3 \right) \quad (1.19)$$

$$C_3 = -\frac{1}{2}PL^2 \quad (1.20)$$

$$v_1(L) = v_2(L) \quad (1.21)$$

$$-\frac{1}{EI} \left( -\frac{1}{3}PL^3 + \frac{17}{24}pL^4 \right) = -\frac{1}{EI} \left( C_4 - \frac{1}{2}pL^3 + \frac{17}{24}pL^4 \right) \quad (1.22)$$

$$C_4 = \frac{1}{6}pL^3 \quad (1.23)$$

よって, たわみ角  $v'(x)$  とたわみ  $v(x)$  は,

$$v'(x) = \begin{cases} -\frac{1}{EI} \left\{ \frac{1}{6}px^3 + \left( \frac{1}{2}P - pL \right)x^2 + (2pL^2 - PL)x \right\} & (0 \leq x \leq L) \\ -\frac{1}{EI} \left( \frac{1}{6}px^3 - pLx^2 + 2pL^2x - \frac{1}{2}PL^2 \right) & (L \leq x \leq 2L) \end{cases} \quad (1.24)$$

$$v(x) = \begin{cases} -\frac{1}{EI} \left\{ \frac{1}{24}px^4 + \left( \frac{1}{6}P - \frac{1}{3}pL \right)x^3 + \left( pL^2 - \frac{1}{2}PL \right)x^2 \right\} & (0 \leq x \leq L) \\ -\frac{1}{EI} \left( \frac{1}{24}px^4 - \frac{1}{3}pLx^3 + pL^2x^2 - \frac{1}{2}PL^2x + \frac{1}{6}PL^3 \right) & (L \leq x \leq 2L) \end{cases} \quad (1.25)$$

と表される.

※解答の導出過程がないレポートは認めない.  
採点済みレポートは次回演習時に返却.

(4) はりの先端 (点 B) のたわみ角  $v'_B$ , たわみ  $v_B$  をそれぞれ求めよ.

式(1.24), 式(1.25)に  $x=2L$  を代入すると,

$$v'_B = v'(2L) = -\frac{1}{EI} \left( \frac{4}{3} pL^3 - \frac{1}{2} PL^2 \right) \quad (1.26)$$

$$v_B = v(2L) = -\frac{1}{EI} \left( 2pL^4 - \frac{5}{6} PL^3 \right) \quad (1.27)$$

と表される.

※解答の導出過程がないレポートは認めない.  
採点済みレポートは次回演習時に返却.

[2] 図2に示すような段付き中実はりについて考える. B点, D点で単純支持されており, A点, E点には集中荷重  $P$  が作用している. はりの側面図は図3のようになっており, AB間, DE間では半径  $r$ , BD間では半径  $\sqrt{2}r$  である. また, はりの縦弾性係数を  $E$  とする. このとき以下の問いに答えよ.

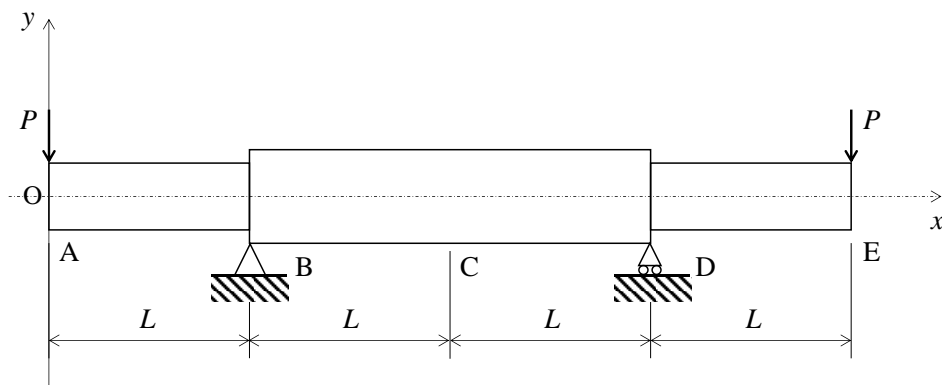


Fig. 2

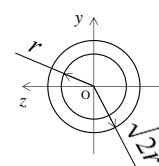


Fig. 3

- (1) AB間の断面2次モーメント  $I_{z1}$ , BC間の断面2次モーメント  $I_{z2}$  をそれぞれ求めよ.
- (2) FBDを描き, B点, D点における支点反力  $R_B$ ,  $R_D$  をそれぞれ求めよ.
- (3) はり全体の SFD, BMD を描け.
- (4) A点におけるたわみ  $v_A$ , C点におけるたわみ  $v_C$  をそれぞれ求めよ.

※解答の導出過程がないレポートは認めない.  
採点済みレポートは次回演習時に返却.

[2]

(1) AB 間の断面 2 次モーメント  $I_{z1}$ , BC 間の断面 2 次モーメント  $I_{z2}$  をそれぞれ求めよ.

図 2.1 に示す円形断面を持つはりの  $z$  軸に関する断面 2 次モーメントを求める.

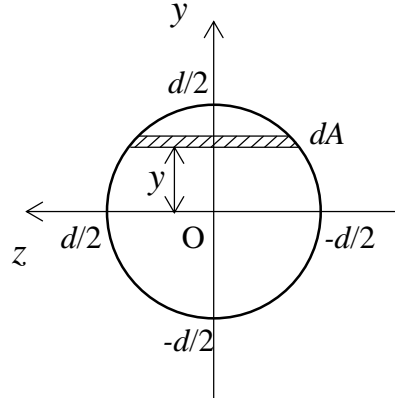


Fig. 2.1 円形断面の断面 2 次モーメントの計算.

上図における微小面積  $dA$  は

$$dA = 2\sqrt{\frac{d^2}{4} - y^2} dy \quad (2.1)$$

よって, 断面二次モーメント  $I_z$  は

$$I_z = \int_A y^2 dA = \int_{-d/2}^{d/2} 2y^2 \sqrt{\frac{d^2}{4} - y^2} dy \quad (2.2)$$

ここで,

$$y = \frac{d}{2} \sin \theta \quad (2.3)$$

とおけば

$$\begin{aligned} I_z &= \int_{-\pi/2}^{\pi/2} \left( 2 \cdot \frac{d^2}{4} \sin^2 \theta \sqrt{\frac{d^2}{4} - \frac{d^2}{4} \sin^2 \theta} \frac{d}{2} \cos \theta \right) d\theta \\ &= \frac{d^4}{64} \int_{-\pi/2}^{\pi/2} (1 - \cos 4\theta) d\theta = \frac{\pi d^4}{64} \end{aligned} \quad (2.4)$$

となる. 上式に  $d=2r$ ,  $d=2\sqrt{2}r$  をそれぞれ代入することで, AB 間の断面 2 次モーメント  $I_{z1}$ , BC 間の断面 2 次モーメント  $I_{z2}$  は

$$I_{z1} = \frac{\pi(2r)^4}{64} = \frac{\pi r^4}{4} \quad (2.5)$$

$$I_{z2} = \frac{\pi(2\sqrt{2}r)^4}{64} = \pi r^4 \quad (2.6)$$

と求まる.

※解答の導出過程がないレポートは認めない.  
採点済みレポートは次回演習時に返却.

(2) FBD を描き, B 点, D 点における支点反力  $R_B$ ,  $R_D$  をそれぞれ求めよ.

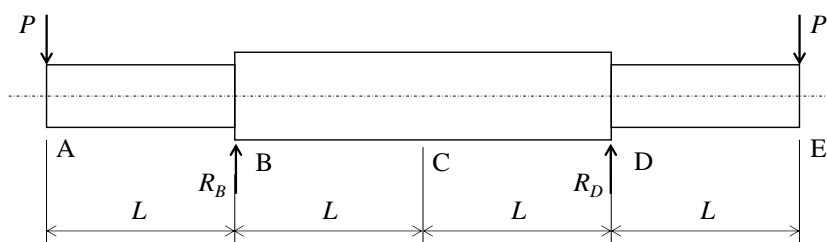


Fig. 2.2 FBD.

力のつり合いより

$$\begin{aligned} -P + R_B + R_D - P &= 0 \\ \therefore R_B + R_D &= 2P \end{aligned} \quad (2.7)$$

対称性より, 支点反力  $R_B$ ,  $R_D$  はそれぞれ

$$R_B = R_D = P \quad (2.8)$$

となる.

(3) はり全体の SFD, BMD を描け.

(i)  $0 \leq x < L$  のとき

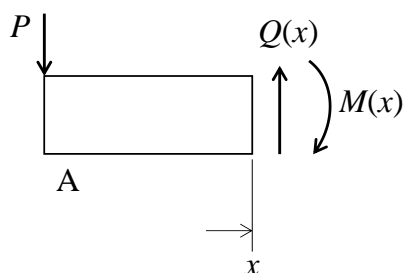


Fig. 2.3 FBD.

せん断力  $Q(x)$  は力のつり合いより

$$\begin{aligned} -P + Q(x) &= 0 \\ \therefore Q(x) &= P \end{aligned} \quad (2.9)$$

曲げモーメント  $M(x)$  はモーメントのつり合いより

$$\begin{aligned} -Px + M(x) &= 0 \\ \therefore M(x) &= Px \end{aligned} \quad (2.10)$$

※解答の導出過程がないレポートは認めない.  
採点済みレポートは次回演習時に返却.

(ii)  $L < x \leq 2L$  のとき

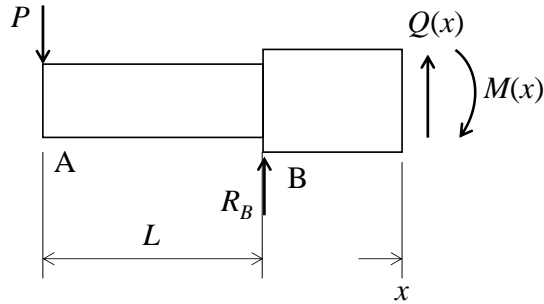


Fig. 2.4 FBD.

せん断力  $Q(x)$  は力のつり合いより

$$\begin{aligned} -P + R_B + Q(x) &= 0 \\ \therefore Q(x) &= P - R_B = 0 \end{aligned} \quad (2.11)$$

曲げモーメント  $M(x)$  はモーメントのつり合いより

$$\begin{aligned} -Px + R_B(x - L) + M(x) &= 0 \\ \therefore M(x) &= Px - R_B(x - L) = PL \end{aligned} \quad (2.12)$$

対称性を考慮して SFD, BMD は以下のように表せる. 対称性を考慮する際,  $Q(x)$ ,  $M(x)$  の正負に注意する.

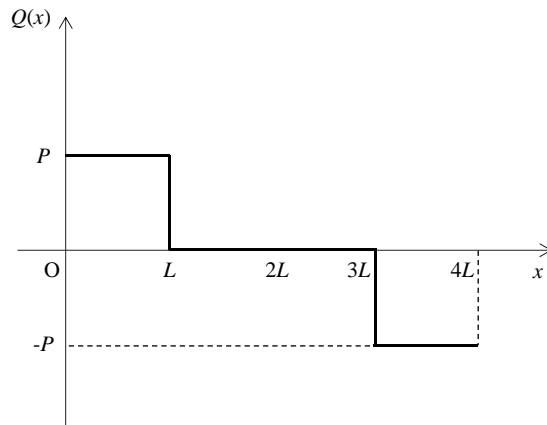


Fig. 2.5 SFD.

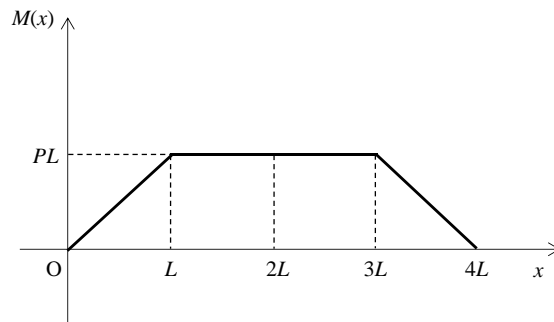


Fig. 2.6 BMD.

※解答の導出過程がないレポートは認めない.  
採点済みレポートは次回演習時に返却.

(4) A 点におけるたわみ  $v_A$ , C 点におけるたわみ  $v_C$  をそれぞれ求めよ.

AB 間のたわみを  $v_1(x)$ , BC 間のたわみを  $v_2(x)$  とする.

たわみに関する基礎式は

$$-EI v''(x) = M(x) \quad (2.13)$$

と表される. 区間ごとに積分を行い, たわみ  $v(x)$  を求める.

(i)  $0 \leq x \leq L$  のとき

式(2.10)を式(2.13)に代入して, 以下の式が得られる.

$$-EI_{z1} v_1''(x) = Px \quad (2.14)$$

上式の両辺を積分することで

$$-EI_{z1} v_1'(x) = \frac{1}{2} Px^2 + C_1 \quad (C_1: \text{積分定数}) \quad (2.15)$$

$$-EI_{z1} v_1(x) = \frac{1}{6} Px^3 + C_1 x + C_2 \quad (C_2: \text{積分定数}) \quad (2.16)$$

たわみ角  $v_1'$  とたわみ  $v_1$  は, AB 間における断面 2 次モーメントが  $I_{z1} = \pi^4/4$  であるので,

$$v_1'(x) = -\frac{4}{E\pi^4} \left( \frac{1}{2} Px^2 + C_1 \right) \quad (2.17)$$

$$v_1(x) = -\frac{4}{E\pi^4} \left( \frac{1}{6} Px^3 + C_1 x + C_2 \right) \quad (2.18)$$

となる.

(ii)  $L \leq x \leq 2L$  のとき

式(2.12)を式(2.13)に代入して, 以下の式が得られる.

$$-EI_{z2} v_2''(x) = PL \quad (2.19)$$

上式の両辺を積分することで

$$-EI_{z2} v_2'(x) = PLx + C_3 \quad (C_3: \text{積分定数}) \quad (2.20)$$

$$-EI_{z2} v_2(x) = \frac{1}{2} PLx^2 + C_3 x + C_4 \quad (C_4: \text{積分定数}) \quad (2.21)$$

たわみ角  $v_2'$  とたわみ  $v_2$  は, BC 間における断面 2 次モーメントが  $I_{z2} = \pi^4$  であるので,

$$v_2'(x) = -\frac{1}{EI_{z2}} (PLx + C_3) \quad (2.22)$$

$$v_2(x) = -\frac{1}{E\pi^4} \left( \frac{1}{2} PLx^2 + C_3 x + C_4 \right) \quad (2.23)$$

※解答の導出過程がないレポートは認めない.  
採点済みレポートは次回演習時に返却.

ここで, C 点において対称性より  $v_2'(2L)=0$  なので

$$\begin{aligned} v_2'(2L) &= -\frac{1}{E\pi^4} (2PL^2 + C_3) = 0 \\ \therefore C_3 &= -2PL^2 \end{aligned} \quad (2.24)$$

となる. また, 接続条件より  $v_1'(L)=v_2'(L)$  なので

$$\begin{aligned} -\frac{4}{E\pi^4} \left( \frac{1}{2} PL^2 + C_1 \right) &= -\frac{1}{E\pi^4} (PL^2 + C_3) \\ \therefore C_1 &= \frac{C_3 - PL^2}{4} = -\frac{3}{4} PL^2 \end{aligned} \quad (2.25)$$

となる. 境界条件より  $v_1(L)=v_2(L)=0$  なので

$$\begin{aligned} v_1(L) &= -\frac{4}{E\pi^4} \left( \frac{1}{6} PL^3 + C_1 L + C_2 \right) = 0 \\ \therefore C_2 &= \frac{7}{12} PL^3 \end{aligned} \quad (2.26)$$

$$\begin{aligned} v_2(L) &= -\frac{1}{E\pi^4} \left( \frac{1}{2} PL^3 + C_3 L + C_4 \right) = 0 \\ \therefore C_4 &= \frac{3}{2} PL^3 \end{aligned} \quad (2.27)$$

となり, 積分定数  $C_1 \sim C_4$  が求まった.

以上より, AB 間に生じるたわみ  $v_1$  と BC 間に生じるたわみ  $v_2$  は

$$v_1(x) = -\frac{4}{E\pi^4} \left( \frac{1}{6} Px^3 - \frac{3}{4} PL^2 x + \frac{7}{12} PL^3 \right) \quad (2.28)$$

$$v_2(x) = -\frac{1}{E\pi^4} \left( \frac{1}{2} PLx^2 - 2PL^2 x + \frac{3}{2} PL^3 \right) \quad (2.29)$$

となる.

A 点におけるたわみ  $v_A$  は, 式(2.28)に  $x=0$  を代入して

$$v_A = -\frac{7PL^3}{3E\pi^4} \quad (2.30)$$

C 点におけるたわみ  $v_C$  は, 式(2.29)に  $x=2L$  を代入して

$$v_C = -\frac{1}{E\pi^4} \left( 2PL^3 - 4PL^3 + \frac{3}{2} PL^3 \right) = \frac{PL^3}{2E\pi^4} \quad (2.31)$$

となる.